

形式的な宗教

マタイによる福音書一五章一〜九節

この民は唇で私を敬うが、その心は私から遠く離れている。

空しく私を崇め、人間の戒めを教えとして教えている。(8、9)

ファリサイ派の人々と律法学者たちが、イエスの弟子たちが宗教上の清めの儀式としての手洗いを行わないことを非難しました。これに対して主イエスは、先祖たちの言い伝えは真に権威あるものではなく、神から与えられた律法こそ真に権威あるものだと言いました。律法学者たちは言い伝えを厳守しようとしながら、もつと大切な律法そのものを犯すという矛盾に陥っていました。彼らの宗教は、外面を取り繕うだけで心の伴わない偽善的なものへと堕してしまっていたのです。私たちのキリスト教信仰も、ファリサイ派の人々と同じように形式主義に陥る危険を常にはらんでいます。キリスト者としての形ばかりに囚われて、「神を愛し、隣人を愛する」という神の最も大切な教えを疎かにすることがないように、常に福音の喜びによって生かされる者たちでありたいものです。